

情報 ひがし労

第 46 号

2020年2月13日

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

編集者 情宣部

JR東労組ついに分裂へ！

JR東労組が分裂した。これまで内部対立を繰り返していた中央本部と3地本（水戸・東京・八王子）は2月10日、それぞれの道を歩みだした。2月10日はおりしもJR東労組第46回定期中央委員会が開催された日だ。そして、3地本が中心となり、新たな労働組合を結成した。名称は「JR東日本輸送サービス労働組合」という。

JR東労組

前述した通り、2月10日、JR東労組は第46回定期中央委員会を開催した。ホームページから「新生JR東労組運動宣言」を確認し、スローガンを含め、全ての議案が満場一致で可決！とある。そして、水戸・東京・八王子地本の執行委員に対する「制裁申請」が確認されましたと書かれている。このことからJR東労組本部は12地本の総団結で3地本に対する制裁と本部派遣で3地本に入り立て直しを図ることがわかる。

JR東日本輸送サービス労働組合

前述した通り、2月10日に結成した「JR東日本輸送サービス労働組合（通称JTSU-E）」は結成大会に283名が参加し、組合員が2,000人を超えているという。また、結成当日にホームページとツイッターが開設されている。運動の基本に「職場から仲間と共にたたかう労働組合の原点を忘れず・・・」と書かれている。「労働組合の原点を忘れず」である、しっかりと今後の趨勢を見ていくしかない。

組合員に寄り添う労働組合を選択すべき！

「18春闘」を発端としたJR東労組の内部対立は分裂という形で幕引きとなったと言える。この分裂策動で3択を迫り組合員は悩んだ。これまで組合員不在の運動を展開してきたJR東労組はどの道を歩むのだろうか。また、3地本主体の「JR東日本輸送サービス労働組合」は法人登録、労働協約・協定の締結が滞りなく手続きが進むのだろうか。未来を語るのは自由だが、その運動に組合員を内包し共に歩むことができるのだろうか。職場の組合員は内部対立から辟易している。しかし、労働組合は必要だ。私たち「JRひがし労」は、組合員、家族の利益のために「職場活動」、「抵抗とヒューマニズム」を基底に当たり前の労働運動を推し進めてきた。これからもそのスタンスは変わらない。今こそ「JRひがし労」の旗のもとに結集しよう！

今こそ！「JRひがし労」の旗のもとへ